

汚染水「ALPS処理水」の海洋放出の即時中止を

政府は8月24日、原発事故汚染水「ALPS処理水」の海洋放出を開始しました。「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」とした漁業者との約束を反故にするもので到底許されません。2021年の海洋放出方針の決定以来、反対のたたかいを担ってきた社民フォーラム福島（「原発のない福島を！県民大集会」実行委員会の構成団体）からの報告です。



県内外の関係者の反対が根強い中、岸田内閣は8月22日、東電福島第一原発事故で発生した汚染水「ALPS処理水」を海水で希釈し8月24日から「海洋放出を開始する」と決定し、24日午後1時から海洋放出を開始した。

岸田首相が強調した「聞く力」は、安倍元首相の「国葬」からはじまり「軍事費倍増」「原発回帰推進」「大増税」など、「聞く耳を待たない」独断政治となつて進んでいる。

今回の「海洋放出」についても、2015年8月に国と東電は県漁連との間で、ALPS処理水は「関係者の理解なしにはいかなる処分もしない」との文書約束が交わされている。地下水バイパスやサブドレンからは放射能に汚染される前（燃料デブリに触れる前）の地下水の海洋放出が行われてきた。この地下水バイパスやサブドレンからの放出についても県漁連は反対してきたが、「廃炉」を進めるために必要な対策として苦渋の決断で承認したという経過がある。この約束はこの時

に交わされた約束文書である。

この内容は、①サブドレンから汲み上げた地下水にトリチウムが基準値を超え検出された場合は、海洋放出せず保管すること。②デブリに直接触れてできた汚染水をALPSで処理した「処理水」は、いかなる処分もしないということであった。これらの約束が破られたのである。

岸田首相は、「数十年の長期にわたろうとも処理水の処分が完了するまで政府として責任を持って取り組んでいく約束をする」と強調したが、「関係者の理解なしにはいかなる処分も行わない」との文書約束を破っておきながらよく平然と言えるものだ。

廃炉には30年から40年以上かかると言われている。しかし溶け落ちた「燃料デブリ」は、880トンあるが12年間で1mgしか取り出せておらず、100年単位でかかると思われる。その間冷却しなければならぬので、海に流し続けられるALPS処理水は、膨大な量の放射性物質になる。海域によっては蓄積され、海流によっては全世界に拡散さ



秋期 第1回政治セミナー

憲法をめぐる情勢と課題

一部野党を巻き込み危険な改憲論議が進んでいます。参議院の憲法審査会委員の辻元清美参議院議員を招き、憲法をめぐる情勢と課題を学びます。

● 10月5日（木）午後5時30分から

● 衆議院第2議員会館 地下1階 第8会議室

※オンライン参加も受け付けます

れる。放射能が蓄積された魚介類を食べさせられることになる。

私たちは、「海洋放出」に対し「長期保管」や「分離技術推進」を何度も東電や経産省要請で訴えてきたが「原子力規制委員会」や「IAEA」から「海洋放出の安全性が確認されている」として「海洋放出ありき」の姿勢は変わることはなかった。

「トリチウム汚染水海洋放出反対」（ALPS処理水海洋放出反対）の闘いは、「原発のない福島を！県民大集会」実行委員会や県平和フォーラムを中心に進められてきた。

同実行委員会は、2021年4月13日政府が「海洋放出方針」を決定して以降、①ALPS処理水の海洋放出は、



国際社会及び国民の理解が得られない限り強行しないこと、②ALPS処理水の処分方針を再検討し、陸上保管を継続しつつ、

トリチウムの除去の技術開発など安全な処理方法の確立に努めることを求め「トリチウム等を含むALPS処理水の海洋放出方針の再検討を求める署名」を行なって来た。署名は、全国からの協力により6月までに391,870筆が集約され6月19日に経済産業省と東京電力に提出し、繰り返し要請を行なって来た（写真＝いずれも窓口は、金子恵美立憲民主党衆議院議員）。

しかし海洋放出は強行された。絶対許されない。8月27日「国・東電による海洋放出反対8/27全国行動」が開催され、海洋放出に強く抗議するとともに「海洋放出計画を即時撤回し、海洋放出を即時中止する」ことを求め闘い続けていくことを決意した。

＝参考＝

「原発のない福島を！県民大集会」実行委員会は、原発事故直後から「二度と福島の悲劇を繰り返してはならない」「福島には原発はいらない」と「東電福島第二原発の廃炉」を求めて「オール福島」の要求として

運動を続けてきた。県民大集会の呼びかけ団体は、県漁連、JA県中央会、県森林組合等の生産団体や観光・旅館組合、そして生協、労働団体などで構成され、大規模な集会を年1回開催し、今年は第12回を迎え3月19日に開催された（写真）。県や市町村議会での決議や意見書採択、そして署名活動（約45万筆集約）と国及び東電への度重なる要請を行った結果、2019年7月に「東電福島第二原発の廃炉」が決定した。アピール団体から署名や要請など行なう活動団体になってきた。福島県社会民主主義フォーラムは、実行委員会の構成団体として活動している。



自治体議員団総会を 11月5日に開催

社会民主主義フォーラム全国自治体議員団は8月20日、第2回運営委員会を開催し、議員団全国総会を始めとする当面の取り組みについて決定しました。

●議員団全国総会・講演会

日時：11月5日（日）午後2時から午後5時まで
会場：東京・TKPスター会議室四谷3階第2会議室
（対面とオンラインとの併用で開催します）

講演会：午後3時30分から

- ・テーマ：汚染水の海洋放出の問題点（仮）
- ・講師：伴英幸さん（原子力資料情報室・共同代表）

※講演会は議員以外の方の参加も可能です。

●当面する取り組み

- ①2024年2月に「予算・地方財政計画」学習会を東京で開催します。
- ②来年の議員団全国総会は研修会を兼ねて、2024年8月（お盆明け）に、一泊二日の日程で仙台市で開催する予定です。

●●自治体選挙の結果●●

前号に引き続き東日本大震災で延期された被災3県等での自治体選挙の結果を報告します。

8月6日に投開票された福島県・郡山市議会議員選挙では、やえがし小代子さん（立憲・公・現7）、いづか裕一さん（立憲・公・現2）が当選しましたが、やなぎだ尚一さん（立憲・公・現2）は及びませんでした。

同日行われた同・須賀川市議会議員選挙ではふかや政憲さん（無・立憲推・現1）、山形県・戸沢村議会議員選挙では加藤政一さん（無・現2）が当

選しました。

8月13日の盛岡市議会議員選挙では、いずれも立憲公認の中村亨さん（現3）、野中靖志さん（現1）が当選。そして立憲推薦で新人の中村まさゆきさん（写真）が、竹花せい子さんの議席を守りました。



8月27日の島根県・益田市議会議員選挙では、いずれも立憲推薦の福原宗男さん（現5）、平原祐一さん（現1）が当選しました。